

# デーヴォ ガイド



**2023.9.11-17**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

【新改訳2017】

ヘブル

[7]

7:1 このメルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。

7:2 アブラハムは彼に、すべての物の十分の一を分け与えました。彼の名は訳すと、まず「義の王」、次に「サレムの王」、すなわち「平和の王」です。

7:3 父もなく、母もなく、系図もなく、生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされて、いつまでも祭司としてとどまっているのです。

7:4 さて、その人がどんなに偉大であったかを考えてみなさい。族長であるアブラハムでさえ、彼に一番良い戦利品の十分の一を与えました。

7:5 レビの子らの中で祭司職を受ける者たちは、同じアブラハムの子孫であるのに、民から、すなわち自分の兄弟たちから、十分の一を徴収するように、律法で命じられています。

7:6 ところが、レビの子らの系図につながっていない者が、アブラハムから十分の一を受け取り、約束を受けたアブラハムを祝福しました。

7:7 言うまでもなく、より劣った者が、よりすぐれた者から祝福を受けるものです。

7:8 十分の一を受けているのは、一方では、死ぬべき人たちですが、他方では、生きていと証しされている人です。

7:9 言うならば、十分の一を受け取るレビでさえ、アブラハムを通して十分の一を納めた

のでした。

7:10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたとき、レビはまだ父の腰の中にいたからです。

イエス様は永遠の大祭司です。人間の大祭司はレビの家系から選ばれました。そのレビはアブラハムの子孫です。メルキゼデクがアブラハムを祝福したということはメルキゼデクがアブラハムよりも上位であるということです。

すなわち、大祭司よりもレビが、レビよりもアブラハムが、アブラハムよりもメルキゼデクが上位であり、そのメルキゼデクもイエスのひな型に過ぎなかったということです。

旧約の出来事はこのようにすべてイエス・キリストを表しているのです。これほどまでにイエス様に関するできごとは、神の権威によって行われているのです。イエス様の前にひれ伏し、その権威を認めて、従いましょう。イエス様はこの世の全てのものの中で最もあなたを愛してくださる方です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 12日 火曜

### ヘブル

7:11 民はレビ族の祭司職に基づいて律法を与えられました。もしその祭司職によって完全さに到達できたのなら、それ以上何の必要があって、アロンに倣ってではなく、メルキゼデクに倣ってと言われる、別の祭司が立てられたのでしょうか。

7:12 祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。

7:13 私たちがこれまで語ってきた方は、祭壇に仕える者が出たことのない、別の部族に属しておられます。

7:14 私たちの主がユダ族から出られたことは明らかですが、この部族について、モーセは祭司に関することを何も述べていないのです。

7:15 もしメルキゼデクと同じような、別の祭司が立つなら、以上のことはますます明らかになります。

7:16 その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらず、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。

7:17 この方について、こう証しされています。「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である。」

7:18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために廃止され、

7:19 ——律法は何も全うしなかったのです——もう一方では、もっとすぐれた希望が導き入れられました。これによって私たちは神に近づくのです。

7:20 また、神による誓いなしではありません。レビの子らの場合は、神による誓いなしに祭司となつていますが、

7:21 この方は、ご自分に対して言われた神の



誓いによって祭司とされました。「主は誓われた。思い直されることはない。『あなたはとこしえに祭司である。』」

7:22 その分、イエスは、もっとすぐれた契約の保証とされました。

律法とその命令による旧約の祭儀は、神の聖なることを表すためには、すばらしいものでした。そしてそれは来るべき永遠の祭司、真のとりなし手、完全なるいけにえであるところの御子イエス様を指し示すひな型です。つまりイエス様の御生涯と十字架を知るときに、初めて旧約の祭儀の意味がわかるということです。

しかしまた旧約の律法と祭儀があることによって、イエス様の十字架が単なる偶然や成り行きではなく、それが大いなる必然であったことがわかります。イエス様の十字架には重要な意味があったのです。その理解はまさにこのヘブル書によって確認され、深められます。

ひな型としての祭司はアロン系であって、それはレビ族から選ばれます。しかしイエス様は違うので、明らかに旧約に限定されないお方です。それは、「肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となった」ということが明らかにされるためです。

確かに律法は罪を自覚させることはできませんでしたが、救いのためには「何事も全うしなかった」のです。しかし自らをささげた永遠の大祭司イエス様は、救いを全うされました。そして「とこしえに祭司である。」ということは、その救いがとこしえに有効であるということです。

このように私たちのために与えられた救いが完全に備えられたものであることのゆえに、神をあげ、感謝し、そして確信を強めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 13日 水曜

### ヘブル



7:23 また、レビの子らの場合は、死ということがあるために、務めにいつまでもとどまることができず、大勢の者が祭司となっていますが、

7:24 イエスは永遠に存在されるので、変わることはない祭司職を持っておられます。

7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。

7:26 このような方、敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され、また天よりも高く上げられた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。

7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

7:28 律法は、弱さを持つ人間たちを大祭司に立てますが、律法の後から来た誓いのみことばは、永遠に完全な者とされた御子を立てるのです。

人間の祭司では永遠の救いを実現できないという理由がここに明らかにされています。「レビの子らのはあいは、死ということがあるため、務めにいつまでもとどまることができ」ないということと、「自分の罪のために」毎日いけにえをささげなければならなかったからです。

すなわち、全人類のために自らを身代わりとして、その罪のさばきを負うことができるのは、神以外にはないということです。そのために御子は神の栄光を捨てて、弱い人間となり、しかも貧しい生涯を送られて多くの悲しみと、耐え難い苦しみを負われま

した。

このイエス様への感謝を忘れることのないようにしましょう。またイエス様の謙遜から学び、十字架によって新しくされることで、自分自身謙遜な者となりましょう。謙遜にされることは恥でも失敗でもありません。光栄なことなのだということを、イエス様の謙遜から学びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 14日 木曜

### ヘブル



8:1 以上述べてきたことの要点は、私たちにはこのような大祭司がおられるということです。この方は天におられる大いなる方の御座の右に座し、

8:2 人間によってではなく、主によって設けられた、まことの幕屋、聖所で仕えておられます。

8:3 大祭司はみな、ささげ物といけにえを献げるために任命されています。したがって、この大祭司も何か献げる物を持っていなければなりません。

8:4 もしこの方が地上におられたなら、祭司であることは決してなかったでしょう。律法にしたがってささげ物をする祭司たちがいるからです。

8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しと影に仕えています。それは、モーセが幕屋を設営しようとしたときに、御告げを受けたとおりのものです。神は、「よく注意して、山であなたに示された型どおりに、すべてのものを作らなければならない」と言われました。

8:6 しかし今、この大祭司は、よりすぐれた契約の仲介者であるだけに、その分、はるかによりすぐれた奉仕を得ておられます。その契約は、よりすぐれた約束に基づいて制定されたものです。

8:7 もしあの初めの契約が欠けないものであったなら、第二の契約が必要になる余地はなかったはずです。

8:8 神は人々の欠けを責めて、こう言われました。「見よ、その時代が来る。——主のことば——そのとき、わたしはイスラエルの家、ユダの家との新しい契約を実現させる。

8:9 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。彼らはわたしの契約にとどまらなかったの、わたしも彼らを顧みなかった。——主のことば——

8:10 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

8:11 彼らはもはや、それぞれ仲間に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。

8:12 わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

8:13 神は、「新しい契約」と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました。年を経て古びたものは、すぐに消えて行くのです。

イエス様が永遠の大祭司であることが論じられています。

イエス様は天の「聖所」において仕えておられます。ですからその働きは永遠であり、またそのとりなしは世々に渡って有効です。ですから私たちは心強いのです。

またイエス様は、旧約の祭儀のように律法に従ったささげ物を要しません。ご自身が十字架で犠牲の身代わりとなられたからです。

旧約の契約は「欠け」があったというこのことですが、それは神が与えたものであるから、い

わゆる「欠陥」ということではありません。罪ある弱い「小さい者」である人間が救われるには至らないということです。問題はあくまでも人間の罪にあるのです。

しかしそれでも神様は全ての者が救われるように、十字架の贖いを成し遂げてくださいました。その大祭司であるイエス様に感謝し、信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 15日 金曜

### へブル

9:1 さて、初めの契約にも、礼拝の規定と地上の聖所がありました。

9:2 すなわち、第一の幕屋が設けられ、そこには燭台と机と臨在のパンがありました。それが聖所と呼ばれる場所です。

9:3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれる幕屋があり、

9:4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナの入った金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の板がありました。

9:5 また、箱の上で、栄光のケルビムが「宥めの蓋」をおおっていました。しかし、これらについて、今は一つ一つ述べることはできません。

9:6 さて、これらの物が以上のように整えられたうえで、祭司たちはいつも第一の幕屋に入って、礼拝を行います。

9:7 しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入ります。そのとき、自分のため、また民が知らずに犯した罪のために献げる血を携えずに、そこに入るようなことはありません。

9:8 聖霊は、次のことを示しておられます。すなわち、第一の幕屋が存続しているかぎり、聖所への道がまだ明らかにされていないということです。

9:9 この幕屋は今の時を示す比喻です。それにしたがって、ささげ物といけにえが献げられますが、それらは礼拝する人の良心を完全にすることができません。

9:10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関するもので、新しい秩序が立てられる



時まで課せられた、からだに関する規定にすぎません。

燭台は聖霊を表し、パンは砕かれた粉ゆえに謙遜ときよめを表します。そのようにして主のおられる所に近づいてゆくことができるということです。至聖所とは主ご自身がおられるところを意味し、それは全く聖なるものです。そこには汚れたままでは入れないので、さまざまなきよめを表しまたきよめをもたらすものがありました。

そして何よりもきよめをもたらすものは、動物の「血」であって、大祭司はそれを携えて至聖所に入ったのです。つまり、神の前に出られるのは、その罪を赦してきよめていただいたものだけであり、それは罪の刑罰をすでに受けたものだけであるということです。もちろん人が罰を受けるなら、滅びですから、それは動物の身代わりが必要だったのです。

私たちがイエス様の十字架の血がなければ、聖なる神の前には立てない、神に祈ることすら赦されないものなのだということを忘れないようにしましょう。

罪をいかにげんに扱うことなく、また罪の赦しを感謝し、そして神様にきよい者とされましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 16日 土曜

### ヘブル

9:11 しかしキリストは、すでに実現したすばらしい事柄の大祭司として来られ、人の手で造った物でない、すなわち、この被造世界の物でない、もっと偉大な、もっと完全な幕屋を通り、

9:12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

9:13 雄やぎと雄牛の血や、若い雌牛の灰を汚れた人々に振りかけると、それが聖なるものとする働きをして、からだをきよいものにするのなら、

9:14 まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。

9:15 キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです。

9:16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。

9:17 遺言は人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間には、決して効力を持ちません。

9:18 ですから、初めの契約も、血を抜きに成立したものではありません。

9:19 モーセは、律法にしたがってすべての戒めを民全体に語った後、水と緋色の羊の毛とヒソブとともに、子牛と雄やぎの血を取って、契約の書自体にも民全体にも振りかけ、

9:20 「これは、神があなたがたに対して命じられた契約の血である」と言いました。



9:21 また彼は、幕屋と、礼拝に用いるすべての用具にも同様に血を振りかけました。

9:22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。

イエス様の十字架は、「どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするのでしょうか。」とあるように、私たちの内面をきよめて、変える力があります。十字架はそのためでもあるのです。

儀式は一時的なものであり、表面的です。しかし私たちには、いける神の身代わりときよめの血があります。血にはいのちがあるのです。わたしたちはイエス様から新しい命をいただいています。ですから新しい生き方が可能なのです。それを確信して、きよい生き方への渴望と確信を持ちましょう。

きよめも癒しも、また成長のためにも、自分を変える必要があると分かっているのでしょうか。それを実現するのは人間の努力だけでなく、主の十字架の血によるのです。私たちは自分が主のみこころに沿って変えられたいと願うこと、そしてそのために主に求め、聖霊様を歓迎することです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:23 ですから、天にあるものの写しは、これらのものによってきよめられる必要がありますが、天上にある本体そのものは、それ以上にすぐれたいけにえによって、きよめられる必要があります。

9:24 キリストは、本物の模型にすぎない、人の手で造られた聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして今、私たちのために神の御前に現れてくださいます。

9:25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違い、キリストはご自分を何度も献げるようなことはなさいませぬ。

9:26 もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

9:28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。

イエス様は永遠の大祭司として「天の」聖所に入られました。それは神のおられる神の御座であり、実は見える「聖所」以上のもの、永遠絶対なるものです。

ですからキリストの十字架の身代わりによって救われ、その血によってきよめられた私たちは、永遠の安息に入ることができたのです。

私たち人間は「一度死ぬことと死後にさばきを受

けること」が定まっていますが、イエスの十字架を受け入れた私たちにとって、さばきとは無罪を宣言されることです。またその未来は「救いのために来られる」というイエス様による救いの完成（新天新地）なのです。

その希望にふさわしい歩みをしましょう。もとは罪人であるという者にふさわしく謙遜でありましょう。永遠の大祭司にとりなしていただけている安心を感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

